

能登半島の復旧工事現場で見かけた、急斜面を上り下りするための工事用移動車両です。2024 年 1 月の能登半島地震では、輪島市街地から珠洲市へと続く日本海側の道路で、斜面崩壊や大規模な土砂崩れ、路肩の崩落などが各地で発生しました。その後、同年 9 月の豪雨災害も重なり、道路や斜面の復旧には長い時間を要しています。2026 年 8 月現在も各所で工事が続き、能登の海岸沿いを走ると、復旧が現在進行形であることを実感します。

写真で特に目を引くのが、山の斜面に敷かれた軌道と、そこを走る小さな作業用車両です。一般の鉄道のような左右のレールだけでなく、軌道中央には歯の付いたラック状のレールが設けられています。鉄道の「アプト式」によく似た仕組みで、車両側の歯車をかみ合わせることで、通常の車輪だけでは滑ってしまうような急勾配でも、安全に資材や作業員を運ぶことができます。急峻な斜面が海岸近くまで迫る能登では、このような機材が復旧工事を支える重要な足となっています。

撮影した 8 月は厳しい猛暑の最中でした。強い日差しを受ける急斜面で、重い資材や機械を扱いながら続けられる復旧工事は、私たちが道路を通行するだけでは分からない、大変な労力の積み重ねです。「架空線注意」の表示からも、限られた空間の中で周囲の設備に細心の注意を払いながら作業していることが伝わります。一日も早い能登の復旧・復興を願うとともに、猛暑の中、毎日現場で作業にあたっている方々に、改めて深い敬意を表したいと思います。

(2026 年 8 月上旬／石川県輪島市)

